
ナノマシン

黒翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナノマシン

【著者】

N4084P

【作者名】

黒翼

【あらすじ】

体に埋め込まれる怪しい装置の力とは？

彼の記憶

「「うるせー、僕に干渉するな。」

印象は最悪だ。

いきなりこんなことを言い放つたはあるクラスメイトだった。

黒く短い髪、いつも長袖の服を着て静かに本を読んでいる。

そんなヤツが話し掛けた俺に突然言ったのだ。

干渉するな、と。

そんな最悪な形で始まつた俺達の関係、読んでくれるとありがたい。

「全く、いきなりなんなんだよ。

干渉するな?

ふざけるなっての。」

俺はブツクサと文句を垂れながら道を急ぐ。

学校であつたこと、いきなり罵声を浴びたことにイライラしながらだ。

「はあ、ゲーセンでも行くかなー。」

正直、この怒りを発散したい。

シューイングで殺りたいな。

この帰り道、俺はアイツの戦いに首を突っ込んだ。

タツタツタツと規則的なおとがする。

ゲーセンの帰り道、いつもは通らない道を通るとアイツはいた。

最初は黒い塊に見えた。

少しすると、それが人であることがわかつた。

ハロウィンの仮装なのか赤いメイクで血を表現している。

どうしたのか気になつてつい、それに話かけてしまった。

「どうかしましたか？

大丈夫ですか？」

返事に帰つて来たのは、

「ガウウウ」

獣の様な唸り声だった。

「…………え？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4084p/>

ナノマシン

2010年12月10日12時44分発行